

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	地歴・地理総合（理・普）	単位数	2	担当者	福島・今井
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

高校生の地理総合（帝国書院） 新詳地理総合 COMPLETE2025（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）

2、科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ課題を追究・解決する活動を通して、公民としての資質・能力を育成する。 （１）地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けられる。 （２）地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察する力を養う。 （３）地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
--

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	球面上の世界	天体としての地球の特質に対する理解を深める。	35	既習範囲
	5月	地図とGISの活用	地図・GISについて理解を深める。		
	6月	国内・国家間の結びつき	領域や交流について具体的な事象の学習を通じて基本的な知識を身に付けられる。		
	7月	自然環境と生活文化	世界の人々の生活文化がその場所の自然環境などからどのような影響を受け、影響を与えているかを理解する。		
	8月				既習範囲
	9月	産業の発展と生活文化	自分たちの文化とともに世界各地の文化を尊重し、国際理解を図る重要性を理解する。		
後 期	10月	言語・宗教と生活文化 グローバル化の進展と生活文化	宗教の地域的な分布の特徴・共通的な願いの理解を通して国際理解に繋げる。	35	既習範囲
	11月	地球的課題と国際協力 ・人口食料問題 ・居住・都市問題	食糧問題の解決に向けた国際協力の在り方を具体的に考察する。 多様な人が集まる都市の在り方を具体的に考察する。		
	12月	地球的課題と国際協力 ・資源・エネルギー問題 ・地球環境問題	資源大国と資源輸入国の在り方を考察する。 地球環境問題の原因と影響を理解する。		既習範囲
	1月	生活圏の諸課題 ・自然環境と防災	災害とその地域の特徴を理解し、高い防災意識を形成する。		
	2月	生活圏の諸課題	地域の課題をみつけ、暮らしやすい社会を作るための解決策を主体的に探ることができる。		
	3月	・持続可能な地域づくり			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。	定期試験、授業プリントの取り組み、資料読解などを総合して評価する。
思考・判断・表現	地理に関わる諸事情について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求・解決しているか。	定期試験、授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況などを総合して評価する。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関心をもち、意欲的に課題を追求する態度があるか。	授業プリントの取り組み、授業への取り組み状況などを総合して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考にして、授業内容を理解すること。課題の理解・表現を授業中に完結できるようにするために、主体的に授業に取り組むこと。定期考査・小テスト・レポートを通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。
--

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	地歴・地理総合（森・イ）	単位数	2	担当者	菊池
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

わたしたちの地理総合 世界から日本へ（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）

2、科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ課題を追究・解決する活動を通して、公民としての資質・能力を育成する。

（１）地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けられる。

（２）地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察する力を養う。

（３）地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4 月	球面上の世界	天体としての地球の特質に対する理解を深める。	3 5	既習範囲
	5 月	地図と GIS の活用	地図と GIS についての理解を深める。		
	6 月	国内・国家間の結びつき	領域や交流について具体的な事象の学習を通じて基本的な知識を身に付けられる。		既習範囲
	7・8 月	自然環境と生活文化	世界の人々の生活文化がその場所の自然環境などからどのような影響を受け、影響を与えているかを理解する。		
	9 月	産業の発展と生活文化	自分たちの文化とともに世界各地の文化を尊重し、国際理解を図る重要性を理解する。		
後期	10 月	言語・宗教と生活文化	宗教の地域的な分布の特徴・共通的な願いの理解を通して国際理解に繋げる。	3 5	既習範囲
	11 月	グローバル化の進展と生活文化	生活文化は地域の自然的な基盤や歴史的な営みなどを反映したものであることを理解する。		
	12 月	地球的課題と国際協力	・世界の食糧問題の現状を理解し、食糧問題の解決に向けた国際協力の在り方を具体的に考察する。		既習範囲
		・人口食料問題	・都市をめぐる問題について理解し、多様な人が集まる都市の在り方を具体的に考察する。		
	1 月	地球的課題と国際協力	・資源大国と資源輸入国の在り方を考察する。		
		・資源・エネルギー問題	・地球環境問題の原因と影響を理解し、国際的な協力体制が不可欠であることを理解する。		
	2 月	生活圏の諸課題	災害とその地域の特徴を理解し、被災に備えた高い防災意識を形成する。		
		・自然環境と防災			
	3 月	生活圏の諸課題	地域の課題をみつけ、暮らしやすい社会を作るための解決策を主体的に探ることができる。		
		・持続可能な地域づくり			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地球的課題への取り組みなどを理解しているか。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	地理に関わる諸事情について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追求・解決しているか。	
主体的に学習に取り組む態度	地理に関心をもち、意欲的に課題を追求する態度があるか。	

5、学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考にして、授業内容を理解すること。課題の理解・表現を授業中に完結できるようにするために、主体的に授業に取り組むこと。定期考査・小テスト・レポートを通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	地歴・歴史総合（普・理）	単位数	2	担当者	菊池
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

明解歴史総合（帝国書院） 新詳歴史総合（浜島書店）

2、科目の目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。また、歴史に見られる課題を多角的・多面的に考察する力をつけ、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚することに努める。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	1部 歴史の扉	私たちの身近にあるものには、どのような歴史や世界との結びつきがあるのだろうか。私たちは過去の状況をどのようにして知り、伝えてきたのだろうか。「近代化」について考察する。	35	既習範囲
	5月	2部 近代化と私たち 序章 近代化への問い			
	6月	1章 江戸時代の日本と結びつく世界	18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのだろうか。		
	7月	2章 欧米諸国における近代化	欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのだろうか。		
	8月	3章 近代化の進展と国民国家形成	近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのだろうか。		
	9月	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのだろうか。 日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化したのだろうか。		
後期	10月	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い	「国際秩序の変化や大衆化」について考察する。 第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。 欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのだろうか。大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのだろうか。 第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのだろうか。	35	既習範囲
	11月	1章 第一次世界大戦と日本の対応			
	12月	2章 国際協調と大衆社会の広がり			
	1月				
	2月	3章 日本の行方と第二次世界大戦			
	3月	4章 再出発する世界と日本			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。	

5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。

日々、世界の情勢からその成り立ちや歴史について興味関心を持とう。

R 7 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	地歴・歴史総合（森・イ）	単位数	2	担当者	横野
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来（第一学習社）

2、科目の目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。また、歴史に見られる課題を多角的・多面的に考察する力をつけ、他国や他国の文化を尊重することの大切さを自覚することに努める。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	1部 歴史の扉 2部 近現代の世界と私たち 1章 近代化と私たち	私たちの身近にあるものには、どのような歴史や世界との結びつきがあるのだろうか。私たちは過去の状況をどのようにして知り、伝えてきたのだろうか。「近代化」について考察する。	35	既習範囲
	5月	1節 18世紀のアジアの繁栄			
	6月	2節 工業化の進展と国民国家の建設	18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのだろうか。		
	7月	3節 結び付く世界と日本の開国	欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのだろうか。		
	8月	4節 帝国主義とアジア諸国の変容	近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのだろうか。		
	9月	5章 近代化が進む日本と東アジア	近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのだろうか。		
			日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化したのだろうか。		
後期	10月	2章国際秩序の変化や大衆化と私たち	「国際秩序の変化や大衆化」について考察する。	35	既習範囲
	11月	1節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦は、日本を含む世界の人々にとってどのような戦争になったのだろうか。		
	12月	2節 経済危機と第二次世界大戦	欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのだろうか。		
	1月	3節 第二次世界大戦後の世界と日本	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのだろうか。		
	2月	3章 グローバル化と私たち	第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのだろうか。		
	3月	1節 冷戦と植民地化・第三世界の台頭	冷戦の経過から冷戦後の世界の変化はどのようなものだったのだろうか。		
		2節 世界秩序の変容と日本			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野からとらえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。	定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとしている。	

5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を的確に理解することに努め、諸課題について理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。
日々、世界の情勢からその成り立ちや歴史について興味関心を持とう。